

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

TSUNOBUE

2019年 8月20日

第 423号



社会福祉法人

小羊学園

住 所 〒433-8105 静岡県浜松市北区三方原町2709-12

電 話 053-584-3337 FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人 稲松 義人

印刷所 アド・アール株式会社



一人ひとりの心の平安を考える =個別支援計画の作成研修風景=

日本では、8月に「平和」について考えることが恒例になっています。それは1945年の8月に日本が敗戦を経験し、多くの人が戦争の悲惨さを心に刻んだからだと思います。新しい憲法で、武力によっては国際紛争の解決をしないことを願い、実際この74年間、国として戦争に直接加わることはありませんでした。しかし、私たちの日常生活の中では争いは絶えません。私たちの身の回りで、今もさまざまな戦いがなされています。自分を正当化するために、他者を批判し、言葉や態度によって人を傷つけ、弱い人に力を誇示し、虐げてしまうこともたびたび起こります。報道を通して知る限り、人間の尊厳がないがしろにされていると感じられる事件も後を絶ちません。

「平和」を考えることは、私たち自身の心の平安について問いかけてみることでなければなりません。そして、同様に、周囲の人たちの心の平安についても一人ひとりが考えなければならぬと思っています。

稲松義人

小羊学園の研修体制

研修部 舟橋 暢

小羊学園では、経験に見合った法人内研修制度を設け、階層別研修を実施しています。

新人研修

静岡地区、浜松地区と分かれて新年度の法人採用職員や中途採用職員を対象に研修を行っています。

浜松地区新人職員研修は4月、8月、3月の年間3回開催しています。小羊学園の理念や施設、職員としての基本的マナー、制度、支援の在り方や組織、チームワークを学びます。段階的に日頃の悩みや苦勞をチームで共有する事や自身の課題と向き合う事を目的とした、振り返りと新たな課題抽出を繰り返す中で求められる職員像を描けられる事、また同期との絆を深め、これからの仕事の精神的な活力源となる事も大きな狙いとしています。

中堅職員研修

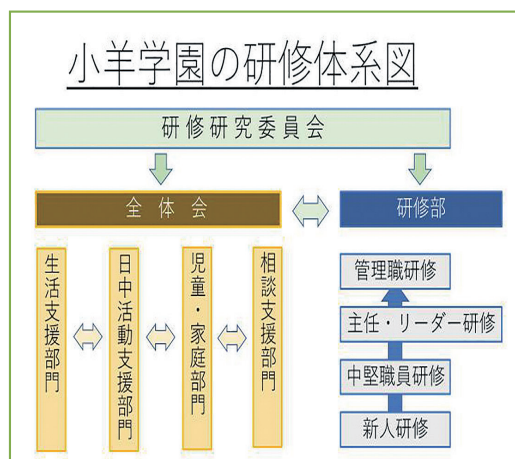
「自分自身を見つめ、よりよい支援を目指す」をテーマとして、就職してから3～4年目の職員を対象にしています。自分の強みや弱みを知ることで利用者理解を深めるための課題整理が大きな目的となっています。振り返りを行う中で中堅層の求められる職務定義を理解し、今後、チームを引っ張っていく存在となれる職員育成が狙いです。

チームリーダー研修

昨年度は、ユニットリーダー、主任、係長を対象に「チーム・マネジメントリーダーとは」ケースメソッドを通してリーダーとフォロワーの役割を考えると題して研修を行いました。

施設・チーム・他職種連携・個人に潜む課題を抽出し、課題に向けての解決策を見出しました。チームマネジメントスキルは、管理者だけに求められるものではなく、リーダー層が周囲を巻き込んで、より大きな成果を挙げていく必要なスキルだと学びました。

その他にも研修研究委員会には、児童家庭支援部門、日中活動支援部門、生活支援部門、相談支援部門毎に種別研修設定しています。それらの報告は、今回の様におつて報告しますので、楽しみにお待ち下さい。



【施設単位の研修システム・報告】

三方原スクエア

三方原スクエア成人部では「個別支援計画作成」をテーマに日中部門研修に参加した風の丘職員2名に講師を担って頂き実施しました。個別支援計画の書式変更に併せて、再度、利用者のご希望や想いがしっかりと計画書に反映できるように、更に支援者としてご意向に沿った支援が行える様、事前課題をベースに小さなグループで計画書の内容を共有・協議し支援計画の組み立ての実践を行いました。これまでも、支援について協議は行ってきましたが、ご本人の希望に立ち返り、支援を見直す、更にステップアップした支援の提供について改めて考える事の出来る良い機会となりました。

三方原スクエア児童部では、医療機関や臨床心理士などによる専門家をお招きし9月に研修を実施する予定となっております。

支援センターわかき

支援センターわかきの施設内研修は、①委員会②全体研修③新人研修④外部研修に分かれ、職員のキャリアや職種に応じた研修体系を組んでいます。

①委員会は1…虐待防止・権利擁護、2…生活向上、3…高齢障害者支援、4…強度行動障害者支援、5…防災に分かれます。②全体研修は年に2回テーマを設定し、1日かけて研修を

実施しています。近年は虐待防止や支援課題のテーマ設定が多いです。③新人研修は支援/介護スキル・制度・組織などをテーマに毎月1回、年間12コマのカリキュラムを学び、知的障害者福祉で働く基本的なスキルを押さえてもろうようにしています。また、別に新人教育制度(プリセプター)も導入しています。④外部研修は、関連する団体等の研修に参加し、より専門性が向上できるように研鑽し時代ニーズに対応できる支援力を磨いています。

つばさ静岡

つばさ静岡では教育研修委員会を中心に年間計画に沿って企画しています。新人オリエンテーション三日間、新人研修、二、三年目研修、主任、管理者研修の他、ステップアップ研修は、職員が、自主的に外部研修を選択し、参加する企画にしています。公的研修として感染対策、医療安全対策の研修を年二回開催しています。その他外部研修は、日本重症心身障害福祉協会主催の研修、心身障害総合医療療育センター主催の研修、日本重症心身障害者学、療育学会での研究発表に参加しています。看護従事者、介護従事者養成研修の企画や参加、医療的ケア児等コーディネーター養成研修を企画しています。今年度は意思決定支援について全職員対象にグループディスカッションを中心とした研修を実施しています。

より良い支援を目指して 日中活動支援部会の実践

【法人の日中活動支援部会の実践】

部会長 マルカート 中西 洋子

日中活動支援部会の参加事業所は、支援センターわかぎ・三方原スクエア・風の丘・つばさ静岡わたくも・オリープの樹・小羊デイケアホーム・マルカートの7事業所になり、毎月1回、部会を開催しています。部会では、各事業所の近況や課題等の報告から課題を共有し、研修を企画しています。

また、研修の他にもこれまでアセスメント表や災害等のマニュアル、個別支援計画書・生活記録の書式等を持ち寄り、内容について意見交換をしてきました。書式などは、異なる部分があり、どういった理由があるのか、話し合いました。表記に違いは見られても意味や目的は、共通していることが確認されました。

部会の実践を経て障がいのある方にとって、日中活動の意味はどんな目的があり、携わっている私たち職員がどう支援していくべきか見つめ直す機会ともなっています。

研修体系

①法人外研修…他法人の生活介護施設における支援・取り組みに触れることで、小羊学園との違いや刺激を感じてくること。そこで職員のスキルアップや日頃の支援に活かしていきたいことなどに繋がるように希望者を募り、年1回実施しています。

②法人内派遣研修…日中活動の内容や健康管理など、どのようなことを学びたいかを事前に絞り込んでから研修へ望んでいます。そして職員のスキルアップはもとより、受け入れた事業所側が日常生活していると気が付きにくい、外から見た感想や疑問などを受け止めていく事も大切な機会です。

③全体研修…各事業所の共通課題を元に、今職員がどんな事を知りたいのか、困っているのか、支援の向上に必要な知識は何かなど、協議しています。その中でテーマをしぼり、外部講師や法人内職員による講義から主体的に気付きや学びを導き、グループワークにて意見交換を実施しています。

【法人外研修について】

オリープの樹 小泉真己

法人外研修は、『外部法人事業所に於ける、支援・取り組みに触れることで個人のスキルアップを図りながら、職場レベルでの支援技術の向上や、組織の活性化などに繋げるヒントをつかむ』を研修目的とし、浜松協働学舎様のご協力のもと毎年実施をしています。

研修立ち上げ時は、部会メンバーのみで研修を行いました。翌年度より、各日中活動事業所の職員10名前後と部会担当者にて伺い、1日かけて様々な事業所へ、見学や活動への参加をしています。

研修の始めに、事前依頼の質問に答えてもらえる時間があります。普段聞くことが出来ないお話に参加者は、真剣に耳を傾けます。その後3グループに別れて各事業所で研修を行います。

1グループ2ヶ所の研修コースが組まれ、生活介護の事業所やグループホームなどにて研修を行います。活動はどんなことをしていたのか?どんな工夫がされていたのか?などを学び、研修終了後にグループワークにて、参加者全員で発表をします。そして、研修で掴んだヒントを各事業所へ持ち帰り、利用者支援に繋げていきます。

今後も更なる個々のスキルアップに繋げていけるような研修にしていきたいと思えます。

【法人内派遣研修について】

風の丘 森 映子

昨年度、目標として掲げていたのは『支援者のスキルアップ』でした。委員会中で、私達は日頃から、法人内の他事業所の特色や、状況の違いなどにもっと関心を持ち、実際の支援を体験するなどの研修を重ねていくことが必要ではないかと考えました。

派遣するにあたって、各事業所で研修ポイントを確認にし、日程を調整した結果、昨年度は5事業所、10名の職員が研修することができました。限られた期間の研修でも以下のような課題が抽出されています。

1..在宅の方、入所の方、グループホームの方などの住環境の違い、2..事業所のスペース的な問題、3..利用者に対しての活動内容の違い、4..固定化/習慣化された日課など。これらの気付きや疑問を、それぞれが各事業所に持ち帰り、参考になる支援の検討がされ、活かされています。

派遣研修は派遣する側も、される側も刺激になり、より良い支援に繋がるきっかけになると期待します。また、職員同士の繋がりができる事で、情報交換もスムーズにできるようになり、同じ法人で勤務する仲間として、意識が持てるようになると心強いと思えます。



グループワーク
多くの意見が飛び交う

日中活動支援部会研修

「個別支援計画作成及び運用に関する研修会」より利用者に寄り添える個別支援計画となるために」

2018全体研修

小羊デイケアホーム 内山千里

はじめに

部会では、個別支援計画書の見直し、一昨年度より法人内の書式統一に向けての検討を重ねています。計画作成時の課題として、支援内容が利用者の方々の意向に沿った内容になっているか、思いを汲み取る為に必要となる情報収集が十分出来ているのか、など現場で直接支援に当たる職員からの意見も含めながら課題を整理し研修の場を設けました。

研修での学び

2018年9月15日(土)、講師には聖隷クリストファー大学社会福祉学部社会福祉学科の川向雅弘先生をお迎えし「障がいがある人の「暮らし」の支援」について講義いただきました。研修の事前打合せで、事業所職員が家庭状況を十分に把握出来ていない事をご指摘いただきました。各事業所では、家庭への訪問まで行っていないのが現状です。

グループワークでは、事例として独



聖隷クリストファー大学
川向雅弘先生

居利用者の暮らしを資料、映像それぞれの情報をもとにアクセスメントを行いました。実際に目で見る事でアクセスメントの情報量は変わり、資料からは読み取れない困り事への気付きがあり、よりご本人の希望を汲み取りやすくなったと感じました。

さらに講義では、親なき後や、意思決定支援の課題についても触れられ、親なき後の漠然とした不安として「本人らしい暮らしが途絶えてしまうのでは」と印象深い言葉がありました。統一書式の運用が順次始められています。支援計画書では「本人の希望」の項目があります。思いをしっかりと汲み取れば生活環境が変わっても、必要とされる支援は繋がると思います。生活の中にユーモアや潤いある豊かな生活を、暮らしを知ること繋がる支援、また支援計画への反映について、研修を通して今一度考える機会を頂きました。

2019全体研修

マルカート 中西洋子

6月8日、支援センターわかぎにて、7事業所の職員約40名が参加しました。「オリーブの樹」清川施設長から個別支援計画の概要講義がありました。

まず、サービス利用の流れを学びました。現在各々の事業所を利用していらっしゃる方やご家族がどのような経緯や手続が必要で来たのかを知る機会となりました。そして、日中での個別支援計画を作成する上でのポイントと資料と事例から説明を受けました。新書式では、サービス等利用計画と連動していくことを考えた項目になっています。また、書式を統一することで法人内職員が同じ目線すなわち、より利用者主体のものとなるようにとの意図がありました。利用者本人が望む支援計画とは、希望の捉え方として、希望を実現するために利用者ご本人に実践してもらうこと・支援員が利用者に支援することなど、「想いマップ」を活用しながら作成していくことで明確に捉えられる事ができることが分かりました。

午後の研修では、それぞれ5〜6人のグループに分れて行いました。まず、個々に架空の事例をベースにした基本情報シート・サービス等利用計画・アクセスメント表を基に、困っていることや嬉しいことなどご本人の「想

【想いマップとは?】

本人が求めている(と思われる)以下の項目を、本人の顔写真を中心にして吹き出しとして表記した様式。

- ・困っていること
- ・うれしい楽しいこと
- ・健康のこと
- ・職員に期待すること
- ・家族友人のこと
- ・やりたいこと

いマップ」に書き込みました。その後グループワークで意見交換をし、「想いマップ」を完成させました。そのマップから、ご本人の希望を読み取り、個別支援計画書の作成も行いました。ご家族の想いとご本人の希望が異なる場合があるのではないかと、優先順位はどちらなのかなど、色々な意見が飛び交いました。グループ発表では、ご本人とご家族役を設定し、発表された支援計画書への感想や意見を述べていく形で行いました。ご本人やご家族の立場になって、支援計画書の発表を聞く機会は、参加された職員にとっては貴重な体験だったという感想も頂きました。また、サービス等利用計画を作成している相談支援員との連携や情報共有することが、利用者の方の生活をよりサポートできるという大切さを学ぶことができました。

日中活動のこれから

今まで部会の会議で、支援計画を立てていく上で、どれだけ利用者の思いに寄り添うことができていたのか、意思決定支援はできているのか、に着目

し話し合ってきました。そのために、個別支援計画書の書式を見直す作業を行いました。今までの書式の項目を、より具体的に表記する事や、表記の文字1つ1つを確認し、支援職員が困惑しないように、意味合いが変わってしまわないか等、何度も話し合いを持ちました。そして、土台となる計画書を完成し、研修を企画しました。

昨年の川向先生からアセスメントの大切さを学び、今回はアセスメントから利用者の方の思いを汲み取ること、また汲み取った思いを個別支援計画書へ反映させるためにはどういった事が大切なのかを学ぶ機会となりました。

今後も、携わっている職員が、利用者の方の代弁者となり、生活がより豊かになるよう、利用者の心の声に耳や心を寄せ、支援していきけるよう、色々な研修など企画していきたいと思えます。その為に、振り返ること、考え見詰め直すこと、これからの取り組みを模索しながら、日中活動支援部会は歩んでいきたいと思えます。



利用者の思いをくみ取る大切さを、みんなで考えていく

参加者の声

「小羊デイケアホーム」

この4月から個別支援計画書を新書式で作成していますが、今回の研修で改めて書き方の確認をしたり、他の事業所の方との意見を交わすことが出来てとても良かったです。また、グループワークでは、同じ資料を基にしても自分が無意識に読み飛ばしている内容がある事にも気付きました。今後、職員会切であると感じました。今後、職員会議等で、担当利用者ばかり重視せず、みんなの視点を生かして計画書を作っていければと思います。

支援員 岡田 史子

「マルカート」

以前の個別支援計画書では、ご本人の課題だったり、こうなって頂きたい、これが出来る様になって頂きたい等職員の思い・希望になってしまいがちでした。しかし、今回の研修の新しい支援計画書では、ご本人の希望を重視すること、また相談支援事業所の作成するサービス等利用計画を元に、作成することを学ぶことができました

支援員 秋田 三津代

「オリーブの樹」

個別支援計画作成の留意点の話を聞いてみると、初めて個別支援計画を作成した時の事を思い出しました。本人の思いを汲み取っている訳でもなく、その人の課題だけを抽出して記入しており、今考ええると恥ずかしくなる思い出です。新しい支援計画では、職員目線で物事を考えるのではなく、本人の希望を第一に考える事が重要とされており、楽しい事や本人のストレンダス(強み・長所)を活かせるような目標を立てる事がより良い計画書に繋がるのだと改めて思いました

支援員 観峯 圭吾

「風の丘」

今回の研修では個別支援計画について全体的な枠組みを確認したうえで事例をもとにグループワークを行いました。いろいろな意見を出し合うことで多くの気づきをいただき視野を広げることができました。また講義にて本人の希望のとらえ方や課題やニーズを整理していくこと、作成上の留意点などを学んだことで意見を絞りやすくなりました。個別支援計画様式統一の目的である「より利用者本位の支援のため」「サービス等利用計画との連動のため」「法人内職員で一定の支援レベルが提供できることを目指す。」を念頭に入れ今後にかかしていきたいと思えます

支援員 林 隆晴

「支援センターわかぎ」

支援センターわかぎでは数年前より個別支援計画書の書式変更が実施されていますが、その内容はまだ手探りで利用者本人よりも職員目線で作成されたものもあります。今回の研修では、具体的な書き方と視点がわかりやすく解説され、グループワークでは利用者の立場に立って「本人の希望」を導き出すための体感ができました。

計画書の書き方が学べたことも大きな収穫ですが、同時に利用者の思いを常を感じ取りながら、その方の人生のステージが輝けるよう一緒に探すことが、支援者の大切な仕事であると研修を通して再確認しました。

主任支援員 大石 真理子

「わたぐも」

日中活動支援部門全体研修に参加することで、静岡と浜松では地域性を含め違いがあるのではないか思いながら参加しました。

同じ課題について、チームとして一人一人が当事者や家族に寄り添い意見を出し合いました。その人らしく生き活きと生活出来る環境を整える為に、繰り返し話し合い、社会との繋がりを大事にしたいと感じました。

今回の研修に参加することで、浜松地区の職員と交流することが出来たのでまた参加したいです。

支援員 田中慎一



挨拶しているのが石井牧師

7月27日(土)に支援センターわがぎ会議室で、2019年度「小羊学園を支える会」運営委員会・総会が開催さ

れました。議題は、2018年度事業報告、2019年度運営委員、2019年度活動計画の承認および意見交換がされました。意見交換の中では、南エリア事業計画の協力方法や教会双方との支えあいなどが出されました。
2019年度運営委員は以下の通り。
【運営委員】
会長…石井佑二(遠州教会牧師)
松本伸吉、山崎陽司、中村弥生、大橋新、田中清司、藁科寧之、安田清美、松井裕美、岡本克秋、大石篤郎、渡辺禎子、松原康好、稲松義人、池谷慎人(敬省略・順不同)

KOHITSUJI STAFF

リレートーク

Vol.3 篠原 真莉子 さん

2010年入職 支援センターわがぎ 生活支援員



Q小羊学園を志した動機は?
聖隷クリストファー大学時代にボランティアで小羊学園とはなじみ深かったからですかね。

Qこの仕事の嬉しいこと、悲しいことは?

言葉を上手に伝えることの難しい利用者とのやり取りで、思いをくみ取り、利用者が伝えたかったと感じ取れた時が一番うれしいですね。

Qちょっとプライベートを教えてください!

休みの日はドライブに行くのが好きですね。特に、行ったことのない未知なる地を開拓するのが楽しいんですよ。

Q誰にリレーしましょうか?また一言メッセージを!

ばぴるすの松本広恵さんにつなぎます。家族ともどもご近所づきあい、これからもよろしくお祈りしますね!

秋のイベント盛りだくさん おこしやす

わかぎ秋祭り

日時: 10月26日(土)
10時~14時
ところ: 浜松市浜北区平口5042
催し物: 模擬店、フリーマーケット、イベント各種
みどころ: スタンプラリー制覇で賞品ゲットのチャンス!
担当: 053-587-2614 寺田

フェスタつばさ

日時: 9月29日(日)
10時30分~15時30分
ところ: 静岡市葵区城北117
催し物: 地域の人気店が集結!
みどころ: 楽しめるイベント盛りだくさん。ぜひお越しくださいね!
担当: 054-249-2830 渡邊

オリーブ祭り

日時: 9月21日(土)
10時~14時
ところ: 浜松市浜北区尾野462-2
催し物: 模擬店、フリーマーケット、イベント各種
みどころ: 多くの出店が並ぶ中、家康くんカステラも来るよ
担当: 053-582-3415 古田

来年に迫った東京パラリンピック2020。4年に1度行われるスポーツの祭典を心待ちにしている人も少なくないだろう。その中で、ブラジルパラリンピック選手団が浜松市で事前合宿を行うことが決まっている。ブラジルとの交流、ユニバーサルデザイン社会の推進などが期待される。是非この機会に様々なパラスポーツも興味を持ち、触れて頂きたい。
今年も猛暑です。小まめな水分補給を心掛け、熱中症などにならないよう、くれぐれもお身体ご自愛下さい。



(S)

小羊学園を支える会

2019年度 寄付金報告

6~7月分 1,031,000円(52件)
累計 1,523,300円(75件)

多くのお支えに感謝申し上げます

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局(鈴木)
小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337